

事例⑪

知的障がいのある児童の主体的な学びを促す環境整備の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 児童の学習意欲が高まらず、前向きに学習に取り組む姿があまり見られない。

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆例えば、「生活単元学習」で、こんなことからはじめてみましょう。

ファーストステップ！

- 生活単元学習「とうふのつくりかたをしらべよう」
- 小学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・「とうふづくり」に興味をもち、本単元の学習活動に対する見通しをもつことができる。

ファーストステップ②

- ・絵本の読み聞かせを通して、自分たちが栽培した（生活）大豆から豆腐を作るために、順序など内容の大体を捉える（国語）などして、各教科等との関連を図るようにしましょう。



	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 本時の流れ ○ <u>これまでに栽培した野菜の振り返り</u> ・大豆、玉ねぎ、人参… ○ 単元の学習活動の見通し ・豆腐を作ってみんなに食べてもらおう。	※野菜の写真を紹介 ※収穫した大豆を掲示
展開	○ 豆腐のイメージづくり ○ 本時の学習課題 ・豆腐はどうやって作るんだろう。 ○ <u>絵本「とうふができるまで」の読み聞かせ</u> ○ 豆腐の作り方で分かったことを発表	※実際の豆腐を見せ、「どうして白い？」等の疑問をもたせる。
終末	○ <u>豆腐を実食</u> ○ 振り返り	

ファーストステップ③

- ・豆腐を実際に食べたり、他の児童と感想を共有したりするなどして、豆腐を作るという今後の学習活動に対する期待感をもたせるようにしましょう。

ファーストステップ①

- ・写真や具体物を提示し、これまでの学習を振り返るとともに、本単元の見通しをもたせるようにしましょう。
- ・意欲をもって本単元に取り組めるよう、過去の楽しかった経験を本単元の内容と結び付けて振り返ったり、他の児童と共有したりしましょう。

